

# 知的障害特別支援学校に在籍する児童生徒のコミュニケーション能力を 効果的に促す支援システムの開発 —アクティブ・ラーニングに必要な言語領域に焦点を当てて—

高橋円\*, 羽藤幸恵\*, 及川和恵\*, 佐々木千尋\*, 品川倫行\*, 山口美栄子\*, 中村くみ子\*,

池田泰子\*\*, 清水茂幸\*\*

\*岩手大学教育学部附属特別支援学校, \*\*岩手大学教育学部,

(平成30年3月4日受理)

## 1. はじめに

特別支援教育の理念の一つとして、教育、福祉、医療、労働等が一体となって乳幼児期から学校卒業後まで障害のある子ども及びその保護者等に対する相談及び支援を行う体制の整備を進めることを掲げており、「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において、個々の教員の専門性の確保はもちろん障害の多様化の実態に対応して幅広い分野の専門家の活用や関連部局間及び機関間の連携が不可欠であると述べている。

文部科学省は、教諭の専門性の向上を促す方法の一つとして、幅広い分野の専門家の活用を挙げており、2008年度の新規事業として「PT・OT・ST等の外部専門家を活用した指導改善に関する実践研究事業」、2013年度の新規事業として特別支援学校としての専門性の強化を目的に言語聴覚士等の外部人材を配置・活用する「特別支援学校のセンター的機能充実事業」を施行した。外部専門家が年数回の特別支援学校を訪問したことで、外部専門家の職種名と職務内容の認知度が上がり、連携の意義を実感する報告も多かったが、定期的な連携を望む声が多く挙げられた。

我々は、言語・コミュニケーションを専門とする言語聴覚士（外部専門家）が特別支援学校を月1～2回の頻度で訪問する機会を得た。また、対象児童生徒の保護者にも研究協力が得られたため、本研究では、教諭、保護者、外部専門家（言語聴覚士）の三者の視点でその実践経過をまとめ、有効的な連携方法や役割について検討することを目的とした。特別支援学校教諭と外部専門家による月1回程度の

定期的な連携や外部専門家による長期的な訪問個別支援を行った実践報告は少なく、今後、有効的な支援を行うための貴重な知見になることが期待できる。

## 2. 方法

### （1）個別指導の対象

外部専門家の個別指導の対象となる児童・生徒については、A特別支援学校（知的）に在籍する児童生徒の中からことばやコミュニケーションについて気になっている子どもを教諭が選定し、保護者に研究協力の承諾が得られた3名とした。

対象B：小学部所属。気になっていることは、母音で話していること、会話が難しいこと。

対象C：中学部所属。気になっていることは、発音不明瞭、平仮名文字の未獲得。

対象D：高等部所属。気になっていることは、発音不明瞭、身振りでのコミュニケーションが多いこと。

### （2）方法

個別指導の開始時期は、対象Bは平成30年5月、対象Cは平成29年7月、対象Dは平成30年3月であり、指導の頻度は月に1～2回、1回の指導時間は30～60分であった。

外部専門家と教諭・保護者との連携については、①教諭や保護者が見学できる時は指導場面に同席する、②指導場面を撮影し、教諭や保護者がいつでも確認できるようにする、③外部専門家が簡単な指導報告書をまとめる、④指導終了後に児童生徒を教室に送る際に口頭で教諭に簡単な報告することで連携を図った。

本報告では、指導期間が一番長い対象Cさんを中心に挙げる。

### 3. 結果

#### (1) 対象Cさんのケース

##### 1) 外部専門家（言語聴覚士）のアセスメント

外部専門家（言語聴覚士）のアセスメントの結果は下記の通りである。①発音：全ての音の子音が脱落し、母音発話になっていた。バ行の「ブ」の音を獲得することを目標として掲げた。②ことばの発達：語彙の拡大を目標とした。平仮名文字：平仮名文字単語と語彙のマッチングを目標とした。

バ行の子音「b」の発声は、上下の唇を閉じて頬をふくらます運動が必須であるが、対象Cさんには困難であったため、学校や家庭でその運動の獲得を目指し、3ヶ月後に再アセスメントを行うこととした。

##### 2) 発音支援に関する学校・家庭の取組み

発音について学校や家庭で行なった取組みをⅠ期（頬をふくらませる・粗大運動へのアプローチ）、Ⅱ期（ブの子音「b」へのアプローチ）、Ⅲ期（子音「b」と母音「u」の結合へのアプローチ）、Ⅳ期（「ブ（b+u）」と母音の結合へのアプローチ）、Ⅴ期（「ブ（b+u）」を含んだ単語へのアプローチ）の5期に分け、まとめた（図1～3）。



図1 Ⅰ期の取組み

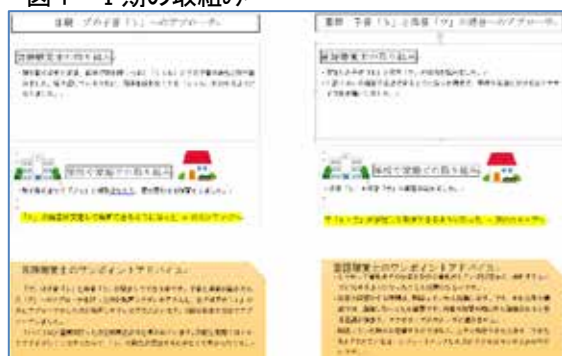


図2 Ⅱ期・Ⅲ期の取組み



図3 Ⅳ期・Ⅴ期の取組み

##### 3) ことばと平仮名文字支援に関する学校・家庭の取組み

ことばの発達と平仮名文字支援に関する学校と家庭での取組みをまとめた（図4・5）。ことばの発達支援として、語彙の拡大に焦点を当てた。平仮名文字は「絵」と「文字単語」のマッチング期と「絵」と文字チップ構成期の2期についてまとめた。

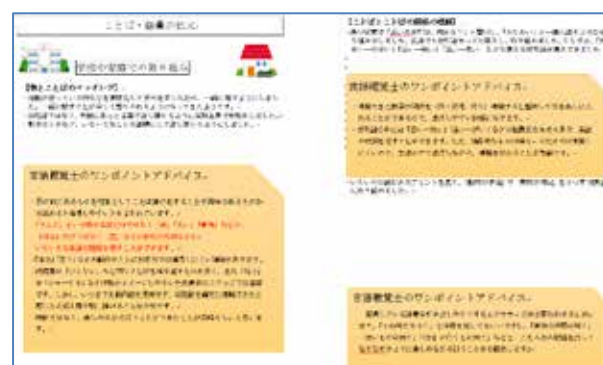


図4 ことばの発達（語彙の拡大）の取組み

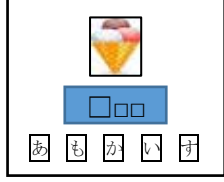


図5 平仮名文字の取組み

##### 4) 連携方法

教諭、家庭、外部専門家（言語聴覚士）との効率的な連携方法を模索した。連携開始から連携方法が確立されるまでの動きをそれぞれの立場別にまとめた（表1）。

表1 連携方法の模索課程

外部専門家（言語聴覚士）	学 校	家 庭
<p>&lt;専門家に支援の依頼&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の承諾を得、担任から外部専門家（言語聴覚士）に、Cさんのアセスメントと言語指導を依頼。</li> </ul>	<p>&lt;朝学習等での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名のなぞり課題プリント</li> <li>・カタカナのなぞり課題プリント</li> </ul> <p>↓</p> <p>☆文字や言葉覚えられようにしたいが、<u>学校では言語発達に関する専門的な知識や方法が分からない</u>。</p> <p>☆専門家にアセスメントをお願いしたい。</p>	<p>&lt;保護者のニーズ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音が不明瞭なので、話ができるようになってほしい。</li> <li>・できれば文字と音が一致し、字を覚えてほしい。</li> </ul> <p>&lt;本人の困り感&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話の内容は理解しているが、不明瞭でなかなか伝わらないので、ジェスチャーや指さしで伝えることが多い。</li> </ul>
<p><b>第1回言語アセスメント</b> H29. 7（担任同席）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>理解力と表現力に差がある。</u></li> <li>・普段できていることでも、<u>自力で言語化するのは難しい。</u></li> <li>→<u>ヒントや手本があればできる</u>ことも。</li> <li>・<u>思考する部分</u>や説明する部分が弱い。</li> <li>・<u>子音が抜ける。不得意。</u></li> <li>・<u>口を閉じて発音する音は弱い。</u>「マ行」「バ行」「パ行」</li> <li>・<u>文字を見てイラストを選ぶことは難しい。</u></li> </ul> <p>↓</p> <p>☆外部専門家のアドバイス</p> <p>①<u>口周りの筋肉を使う</u>機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・笛やおもちゃを使った「<u>吹く</u>」、ストロー等で「<u>吸う</u>」、<u>口を閉じて物を噛む</u>。</li> <li>・<u>口を閉じて頬をふくらませて</u>「ブッ」と音を出す</li> </ul> <p>②<u>単語理解</u>を丁寧にして語彙を増やし、<u>単語から文字を分解</u>して一つ一つの文字を覚える。</p> <p>※6字程度の中から単語に使われている<u>文字要素を拾う</u>（<u>順番が違っても可</u>）</p> <p>③<u>思考、考える習慣</u>をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇〇したら、どうする？」</li> <li>・その場、直後、少し経ってから3段階で確認する</li> </ul> <p>④<u>幼児語を成人語</u>に。</p> <p>×ちよきちよき→〇切る、×えんえん→〇泣く</p> <p>⑤<u>短く手本を示す</u>。簡単なことや好きな物から聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手本→真似→フィードバック</li> </ul> <p>⑥<u>家では目にする物に文字を張っておく</u>。</p> <p>例「<u>といれ</u>」「<u>といけ</u>」「<u>てれび</u>」等…</p>	<p>&lt;保護者との情報共有&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アセスメントの内容やビデオを保護者に渡し、現状の課題や家で取り組める内容を伝える。</li> </ul> <p>&lt;朝学習での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語アセスメントの内容を活かしたプリント課題</li> </ul> <p><b>絵と同じ文字を拾うプリント課題</b></p>  <p>○吹き戻しを3秒間吹くトレーニングの導入</p> <p>○箱の上に紙を置き、吹いて穴に落とすトレーニング</p> <p>&lt;学校生活全般での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安心して話せる環境作り</li> <li>※<u>多少不明瞭で間違っても否定しない</u>。</li> <li>○給食時を活用して、美味しかったメニューを給食時、直後、少し時間が経過してからの3回聞く</li> <li>○<u>今やっている活動や物等を言語化し、手本を示しながら本人と一緒に話す</u>。（Cさんは外で歩いている等）</li> <li>○給食時に牛乳を飲む際、バックを押して飲んでいたので、<u>固いプラスチックコップとストローを使い、自力で吸うようにした</u>。</li> <li>○できるだけ成人語で接する。</li> </ul>	<p>&lt;家庭での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家の言語環境を調える</li> <li>・<u>時計やトイレ等に文字で表示</u>をした</li> </ul> <p>○成人語で接する</p> <p>保護者自身が幼児語を使って本人と話していたので、使わないように留意する。</p> <p>○食事のときはできるだけ<u>口を閉じて噛むようにする</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兄が口を閉じて噛むよう、声掛けをしてくれているとのこと。</li> </ul>
<p><b>第2回言語アセスメント</b> H29. 10（担任同席）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月に比べて、<u>部分的に2歳分上</u>がっていた。</li> <li>・<u>幼児語はなくなってきた</u>。手を洗う、寝る、はさみで切る。</li> <li>・<u>音韻意識が高まっている</u>。（不明瞭でも「みかん」と3字で話す。）</li> <li>・<u>2語は確実に話せる</u>。3語もつなげて話せるようになってきた。例）大（が）パンダ（を）洗う</li> <li>・口をすぼめて息を「ブー」と吹き出すのは上手になった。「は」行は、まだ風が足りない。</li> <li>・<u>口の動きが前回よりもスムーズになったため、発音のトレーニングに移れる。</u></li> </ul> <p>↓</p> <p>※更に発達を促せるよう、以下のアドバイスをいただく</p> <p>①<u>音の渡り、音数への意識</u>。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不明瞭でも良いので、口をしっかりと動かして次の音に移る。</li> <li>例）ひこき→「い・お・ー・い」</li> </ul> <p>②<u>口の動きのトレーニング</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの噛む、吸う、吹く等のトレーニングは継続する。</li> <li>・「ガラガラ…」と声を出したうがいをする。→「か」行の発音にもつながる。</li> </ul> <p>③<u>行動を言葉で表現する</u>。</p> <p>※初めは手掛かりやヒント、答えの復唱でも良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問をして、言葉で答えてもらう。※いつ、どこでは最後に確認する。</li> <li>例）「今日、何食べた？→誰が？→誰と？→いつ？→どこで？」</li> <li>・目の前にあるものを、言葉で説明してもらう。</li> <li>例）「今、何してる？」「それ、なあに？」「さっき、何し</li> </ul>	<p>&lt;学校・家庭で取り組んでからの本人の変化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プリント課題では、好きな果物の文字要素を抜き出せるようになってきた。</li> <li>・吹き戻しは喜んで行い、<u>頬を膨らませて3秒間キープ</u>できるようになった。他の教師にも<u>自慢げに見せていた</u>。</li> <li>・間違っても否定せずに、小さなことでも褒めていくことで、学級でも<u>安心して表現</u>できるようになってきた。</li> <li>・単語や動作などを言語化し、<u>手本を示して一緒に話す</u>ことで、話すことの楽しさを感じてきた。</li> <li>・外部専門家を学校で見かけると、喜んで吹き戻しを吹いて、できるようになったことを見せていた。</li> </ul> <p>&lt;保護者との情報共有&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アセスメントの内容やビデオを保護者に渡し、現状の課題や家で取り組める内容を伝える。</li> <li>○次回から、月に数回定期的に言語トレーニングを行うことを伝える。</li> </ul> <p>&lt;朝学習での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題プリントは継続、終わったら音の渡りを意識しながら一緒に発音してみる。（<u>多少不明瞭でも可</u>）</li> <li>・吹くトレーニングも継続。</li> <li>・<u>スウェーデン刺繍の布を使った簡単な刺繍（波縫い）を開始</u>。</li> <li>※コースターのサイズからスタート。</li> <li>自分のものから家族へのプレゼントとして作り始める</li> </ul>	<p>&lt;家庭での取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○言語トレーニングの実施について了承。</li> <li>○<u>反対語カード</u>を家でも購入し、練習していた。</li> </ul>

<p>てた？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>簡単ななぞなぞ</b>を出す。</li> <li>例)「頭にかぶるもの、なあに?」、「甘くて赤い、果物はなあに?」</li> <li>・間違いがしを言葉で説明してもらう。</li> </ul> <p>④<b>語彙を増やす。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・反対言葉（市販されている反対語カードを使っても良い。）</li> <li>例) 大きいの反対は?→小さい、長いの反対は?→短い</li> </ul> <p>⑤<b>物事の順番を意識。(お話作り絵カードなどを使っても良い。)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かくれんぼでどう遊ぶ?」「頭を洗ったら次はどこを洗う?」</li> <li>・自動販売機でジュースを買うとき、最初は何する?→お金を入れたら?→ジュースが出てきたら?</li> </ul> <p>⑥<b>ターゲット音を決めて、発音を練習してみる。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「り」の付く言葉→りか、りす</li> <li>・「ぶ」の付く言葉→ぶた、ぶどう、ぶらんこ</li> <li>・「わ」の付く言葉→わなげ、わっか</li> <li>※「ぶ」は、①唇を閉じる</li> <li>→②「ぶっ」と破裂させる</li> <li>→③母音の「う」唇を閉じることを意識。</li> <li>※「わ」は、「う」+「あ」で「わ」になる。</li> </ul> <p>⑦<b>指先と口先はつながっているの、手先を使うと良い。</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>アイロンピーズをピンセットでつまみ、色分けをする課題を開始。</b></li> <li>※色分けは元々好きなので、ピンセットを使うことで手先を使うようにした。</li> </ul> <p>＜学校生活全般での取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○給食時には補助具が付いた支援箸を使っていたが、普通の箸でも自分なりに箸を使って食べていたので、<b>普通の箸に切り替えた。</b></li> <li>○今やっている活動や物等を言語化し、手本を示しながら本人と一緒に話す。</li> <li>○本人が<b>好きな果物からなぞなぞ</b>を出す。→「赤くて丸い果物なあに?」</li> <li>○<b>反対語を質問し、一緒に話す。</b></li> <li>→「長い」の反対は?→「短い」等</li> </ul>	
<p><b>言語トレーニング開始</b> H29. 12～(担任同席)</p> <p>○<b>ターゲット音を「ブ」に設定。</b></p> <p>→口を閉じて頬を膨らませ、唇を震わせて「ブッ!」と空気や音を出してみる。→少しずつできるように。</p> <p>○自動販売機での購入課程を選ぶ</p> <p>○なぞなぞ 等</p> <p>↓</p> <p><b>小さなことでも、言語聴覚士に褒められるととても喜び、楽しんでトレーニング</b>をしていた。</p> <p>☆外部専門家のアドバイス</p> <p>○「ブ」の音から作っていくが、<b>トレーニング以外の時間できっちり取り組むと、意欲が低下することもある</b>ので、<b>日常の所では多少不明瞭でもOKとし、メリハリを付けると良い。</b></p> <p>○<b>体全体の不器用さがあるので、粗大運動をやってみると、口の動きにもつながる。</b></p>	<p>＜学校・家庭で取り組んでからの本人の変化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音が<b>少しずつ聞き取りやす</b>くなってきた。</li> <li>・なぞなぞは、喜んで答え、反対語も<b>語彙が広がった。</b></li> <li>・刺繍は楽しそうに取り組む。初めは縦糸を拾い損ねることもあったが、<b>繰り返し取り組む内に、早く、正確に布の縦糸の目を拾えるようになった。</b></li> <li>・好きな果物や動物については喜んで取り組むが、嫌いな物（虫、カラス等）は、意欲が下がる。→苦手でもやってみようとう励ます。</li> </ul> <p>＜保護者との情報共有＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トレーニングを保護者に連絡帳で伝え、現状の課題や家で取り組める内容を伝える。</li> <li>○頬を膨らませて「ブッ」と破裂させる活動を、家でも適度に取り組むと良いことを伝える。</li> <li>○粗大運動も大切とのことなので、家でもできそうな運動を取り入れると良いことを伝える。</li> <li>○冬休みの宿題に、朝学習で取り組んでいる言語のプリントを出す。</li> <li>○調理学習で実施したパウンドケーキのレシピや使った道具と一緒に家庭に持ち帰り、家でも作ってもらうこととした。</li> </ul> <p>＜学校での取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝課題は継続。</li> <li>・「ブ」の練習は適宜、一緒に行う。</li> <li>※新たに吹き上げパイプを導入。</li> <li>・体育館で「ぎっこんぱったん」や、教師と一緒に体操したりして、体全体を使う動きを昼休みに行う。</li> <li>・反対語を意識して一緒に話す。</li> <li>・調理学習では、量る、粉をふるう、混ぜる等、手を使う仕事をやってみる。難しいときには道具を工夫する。</li> <li>→手を使う機会を増やし、挑戦すれば自分でできるという自信につなげたい。</li> </ul>	<p>＜家庭での取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家でも「ブ」の練習に取り組んでもらった。</li> <li>○家でも粗大運動の一環として、体操をしたり、手押し車をして取り組んだ。</li> <li>○冬休みの課題に頑張って取り組んでもらった。</li> <li>○ケーキ作りにも取り組む機会を作ってもらった。</li> </ul>
<p><b>言語トレーニング②</b> H30. 1～</p> <p>○「ブ」の練習…「ブッ!」+う＝「ブー」→時々できていた。</p> <p>○「べ」「バ」の練習…「ブッ!」+え＝「べ」</p> <p>※「ブッ!」がスムーズに出るようになった。</p> <p>○舌の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あっかんべー→以前より上手く舌が出ている。</li> <li>・舌を出したまま歯で噛む→難しい</li> </ul> <p>○反対語、なぞなぞ、自動販売機の購入手順</p> <p>＜言語聴覚士と学校での確認事項＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任団がトレーニングに参加できないときは、本人と外部専門家と2人でも実施することを確認した。</li> <li>・是非、保護者にも様子を見てもらいたい旨を確認。</li> </ul>	<p>＜学校・家庭で取り組んでからの本人の変化＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬休みに入ったため、家庭での取り組みがほとんどであったが、口から「ブッ」と空気を出すのが上手くなった。</li> <li>・休み明けに<b>スケート学習</b>を行ったところ、少しの距離であったが、<b>自分で立ったり、補助となる椅子を自分で押したり</b>できるようになった。(一昨年のスケート学習では、できなかった)</li> </ul> <p>＜保護者との情報共有＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○トレーニングの様子を保護者に連絡帳で伝える。</li> <li>○次回以降、1度、直接トレーニングの様子を見てほしい旨を伝える。</li> </ul> <p>＜学校での取り組み＞ 前月のものを継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○なぞなぞ問題</li> <li>実際にフルーツ飴を使ってなぞなぞ問題を出し、正解すると飴をもらう活動をした。</li> <li>「赤い丸いくだもの何?」「りんご」</li> <li>「赤い三角のくだもの何?」「イチゴ」等</li> </ul>	<p>＜家庭での取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家でもできる範囲で体操をしたりして体を動かしている。</li> <li>○次回のトレーニングで、時間を作って実際に様子を見ていただく。</li> </ul>



<p><b>言語トレーニング③ H30. 1 (担任・母同席)</b></p> <p>○母親に来てもらい、直接トレーニングの様子を見てもらった。</p> <p>○過去の出来事に答える。(給食何食べた?) →ヒントがあると答える。自信が無いと「うーん」。</p> <p>○「プ」「べ」「バ」「ボ」の練習 「プッ!」+う、「プッ!」+え → 「プー!」、「ベー!」 ※初めは一緒に。次は手本を示し、最後は一人で。 ※母音がついて発音できるようになった。</p> <p>○「が」のつくことば 「ながい」「えいが」</p> <p>○舌の動きの確認 ○反対語、自動販売機の購入手順、などなど ※真似から、一部の手本で言えるようになってきている。</p> <p><b>&lt;外部専門家と学校での確認事項&gt;</b></p> <p>・次回からビデオと簡単な報告書(メモ程度)を実施後、担任宛に送付することを確認した。</p> <p>・もう少し音が確立できたら。家や学校で取り組んでほしいトレーニングを伝えたい。</p>	<p><b>&lt;学校・家庭で取り組んでからの本人の変化&gt;</b></p> <p>・休み明けの学校のスキー学習で、以前はロープを付けて教師が後ろから引っ張っていたが、<u>自分で体重を移動して一人で曲がれるようになった。</u></p> <p>・「プ」の音は、上手くできるようになると教師に喜んで見せている。</p> <p>・音の渡りがはっきりとしてきたので、<u>朝の会や帰りの会での司会進行が聞きやすくなった。</u></p> <p>・使える反対語や動作、単語が少しずつ多くなり、<u>言葉に広がりが見られた。</u></p>
<p><b>&lt;外部専門家と学校での確認事項&gt;</b></p> <p>・トレーニングは1週間～2週間に1度のペースで今後も継続したい。</p> <p>・「ぶ」「ば」「ぼ」がつく言葉を学校や家庭でも探してほしい</p>	<p><b>&lt;保護者との情報共有&gt;</b></p> <p>※トレーニング後に外部専門家に送っていただいたビデオと簡単な報告書を保護者に渡し、<u>情報共有のツール</u>とすることとした。</p> <p><b>&lt;学校での取り組み&gt;</b></p> <p>・前月のものを引き続き継続。</p> <p>・プリント課題は、3文字の単語を少しずつ単語増やしている。</p> <p>・バ行音を学級でも少し取り組む。(多少不明瞭でも可)</p> <p><b>&lt;家庭での取り組み&gt;</b></p> <p>○「プ」の音の練習は家でも行っている。(兄の夢に出てくるほど)</p> <p>○体操もできる範囲で継続している。</p> <p><b>&lt;学校・家庭で取り組んでからの本人の変化&gt;</b></p> <p>・少しずつ、指さしから、<u>難しくても言葉で伝えようとする姿勢</u>が見られるようになった。</p> <p>・なかなか伝わらなくても諦めずに伝えようとする姿が見られた。</p> <p>・自分のことはできるだけ自分でする意識が出てきた。</p>

## 5) 教諭、保護者、外部専門家の感想

### <教諭の感想>

- ・専門家からのアドバイスを受け、個別学習の取り組みの内容を充実させることができ、学習活動を広げることができた。以前は不明瞭で聞き取りづらかった話も少しずつ分かるようになってきて、取り組みの効果を感している。
- ・ことばの発達、獲得の方法についてどこから手を付ければよいか、どのように進めればよいか分からなかったため、専門家にアセスメントと指導のアドバイスをいただき、朝学習を始め、学校生活全体で取り組むことができた。保護者とも情報を共有して三者で言語について取り組めたので本人の意欲も上がり、どんどん上達した。三者の協力はとても有効だと思った。
- ・発音について、どう取り組んでいいか分からなかったことが分かり、学校でも意識して取り組めた。やはり、直接言語トレーニングを見ることができたのが良かった。また、客観的に言語聴覚士に見てもらえるので、子どもの成長が分かりやすい。(例:前回この段階だったが、今回はここまでできたよ)
- ・Bさんを対象にトレーニングを受けたが、低学年であるということで、集団の場での学びや経験も大事にしたかったので個別で課題に取り組むのは個別学習の時

間とし、学級として他の児童と一緒に取り組めるように意識した。それにより、他の児童も座り方が上手になったり、他児の発声や発語にも教師が意識したりすることができ、学級全体に還元できたと感じている。

- ・活動したことを言語化して伝えたり、単語で話してきたときに文章にして返したりするなど、教師サイドの意識が変わってきた。

### <保護者の感想>

言語トレーニングの回を重ねるごとに、ことばがはっきりしてきている娘の成長に驚いた。言語聴覚士から指先、そして体全体を使うことがことばの発達につながるということを聞いて、家でも意識して生活した。本人も自信が付いてきている。これからも教えていただいたことを大切に頑張りたい。

### <外部専門家(言語聴覚士)の感想>

- ・リハビリは少量頻回が効果的であるといわれているが、今回、学校や家庭で日々エクササイズをしてもらうことで、驚くほど指導の速度が上がった。指導の速度が上がるといことは、発音が早く改善されるということなので、効果的な支援を行うためには、学校と家庭と外部専門家がタッグを組む意義を改めて実感した。

#### 4. まとめ

実践者のコメントからも示されているように、外部専門家（言語聴覚士）が定期的に学校を訪問し、在籍する児童生徒を定期的に個別指導したことで、児童生徒のことばの発達が促された。訪問指導による効果が得られた要因として下記四点が考えられた。

- ①今回、外部専門家（言語聴覚士）が子どもの発音の状態をアセスメントすることにより、学校や家庭で行うべきことが明らかになった。
- ②アセスメント結果を踏まえて、学校や家庭で同じ目標に向かって日々支援を行った。
- ③外部専門家（言語聴覚士）が定期的に訪問指導を行ったことで、タイムラグがなく次の目標が明らかになるため、子どもの発達の支援を効果的に促すことができた。
- ④どのように発達を促すかについて、外部専門家（言語聴覚士）の指導場面を見学したり、指導場面を録画したDVDで確認したりすることで、学校や家庭において実践することがイメージしやすかった。

今後は、外部専門家との連携経験がない教諭や保護者が今回得られた知見を共有できるように、支援のステップや支援方法などが記載された資料を作成し、より多くの子どもの発達を効率的に促す取り組みを行うことを考えている。

**謝辞** 本研究に協力をしてくださった児童生徒、保護者の方に心より御礼申し上げます。

#### 引用文献

- ・文部科学省「今後の特別支援教育の在り方について(最終報告)」，2003
- ・文部科学省「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業中間報告」，2008
- ・文部科学省「特別支援学校のセンター的機能充実事業 成果報告書(概要)」，2012